

令和6年度 学校経営計画及び学校評価（案）

1 めざす学校像

アカデミックで自由闊達な校風のもと、文武両道の実践を通じて、国際社会の真のリーダーたるにふさわしい人材の育成をめざす。そのためには知・徳・体のバランス、豊かな人間性と心身のたくましさ、さらには高い志とチャレンジ精神が必要である。それらによって自らの進路を切り開き、高邁な理想で社会に貢献する生徒を育成する。具体的には以下の能力や態度をもつ生徒である。

- ・多角的な視点を持ち、ものごとを洞察する力、
- ・主体的に課題を解決しようとする態度、
- ・高度なコミュニケーション能力、
- ・自己を確立するとともに、互いの違いを認め合い尊重しようとする態度

以上の「育てたい生徒像」をベースにして、「北野生の『凄さ』が輝く学校づくり」に オール北野 で取り組む。

2 中期的目標

1 高い学力の育成

教員、生徒がともに真摯に学ぶ環境を追求し、高度な知識と教育スキルを兼ね備えた教員集団を確立する。授業を通じて生徒が学問に対する興味・関心を高め、自ら主体的に学び、さらに高度な学びに向かってチャレンジしていく意欲を高める。生徒に育成すべき資質・能力として、生きて働く「知識・技能」、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を常に意識して取り組む。

(1) アカデミックな授業 ～北野生の「凄さ」が「輝く」授業づくり～

- ア 授業に係る研修機会や授業相互参観等の充実を図り、教職員の授業スキルの一層の向上を図る。イ 教員の専門的知識やICT活用法を研鑽する 機会の充実を図る。
- ※ 学校教育自己診断（教職員向け）「教科指導について、教職員と日常的によく話し合っている」の肯定的評価が令和8年度実績で 90%以上（R3 89.6%, R4 87.7%, R5 82.7%）
 - ※ 学校教育自己診断（生徒向け）「教え方にさまざまな工夫をしている先生が多い」の肯定的評価が令和8年度実績で 92%以上を維持（R3 95.0%, R4 95.9%, R5 94.7%）
 - ※ 学校教育自己診断（生徒向け）「授業などでコンピュータやプロジェクタ、電子黒板を活用している」の肯定的評価が令和8年度実績で 95%以上を維持（R3 95.9%, R4 97.2%, R5 97.3%）
 - ※ 学校教育自己診断（生徒向け）「授業は興味深く満足できるものである」の肯定的評価が令和8年度実績で 90%以上を維持（R3 96.6%, R4 94.5%, R5 94.7%）

(2) 主体的に学ぶ意欲・態度の育成

- ア 生徒が自学自習を進めやすくなるような方策を検討し、併せて適切なアドバイス等を行う。イ 生徒の自己実現、進路目標設定のためのキャリア教育の充実を図る。
- ※ 学習調査により把握する「平日の一日平均自主学習時間」が「2時間以上」と回答する生徒の割合を令和8年度実績で 50%以上（R3 51%, R4 48.9%, R5 49.8%）、「3時間以上」と回答する生徒の割合を同 35%以上（R3 37%, R4 28.4%, R5 26.2%）
 - ※ ①「知的世界の冒険」、②「職業ガイダンス」、③「学部・学科ガイダンス」各々の生徒アンケートにおける肯定的評価を令和8年度実績で各々95%以上を維持する。（①R3 100%, R4 95.6%, R5 100% ②R3 100%, R4 91.8%, R5 100% ③R3 99%, R4 98.3%, R5 98.5%）
 - ※ 学校教育自己診断（生徒向け）「学校は進路についての情報を知らせてくれる」の肯定的評価を令和8年度で 90%以上を維持（R3 94.3%, R4 89.4%, R5 92.1%）
 - ※ 生徒進路希望現役実現率（3年第2回11月進路希望調査の第一志望校の現役合格率）が令和8年度実績で 50%以上（R3 56.5%, R4 41.1%, R5 52%）

2 豊かな人間性と心身のたくましさの育成

本校の生徒は、将来、知・徳・体のバランスの取れたリーダーとなり、社会に貢献する使命を持つ。本校のあらゆる学習活動、学校行事、部活動やその他の課外活動等を通じて、互いの違いを認め合いつつ協力し、切磋琢磨する中で、高い志を持って何事にもチャレンジしていく心身を育成する。

(1) 学校行事・部活動・課外活動

- ア 学校行事や部活動において、生徒がその力を十分に発揮できるよう組織的に支援していく。
- イ 各種コンクール、コンテストや課外での行事等への積極的参加を働きかけていく。
- ※ 学校教育自己診断（生徒向け）「文化的行事（体育行事）に楽しく参加している」の肯定的評価の平均値が令和8年度実績で 92%以上を維持（R3 90.9%, R4 92.3%, R5 94.1%）
 - ※ 生活アンケート（生徒向け）における「部・同好会加入率」が令和8年度実績で 92%以上を維持（R3 89.4%, R4 93.4%, R5 91.5%）
 - ※ 全国レベル、近畿レベルのコンクールやコンテスト、競技大会等への参加者数について、令和8年度に前年実績を維持（R3 61人, R4 61人, R5 44人）

(2) 人権教育・教育相談の充実

- ア 「人権が尊重された教育活動」を根底にすえて、すべての教育活動において、「自分を大切にし、他者を大切にし、その中で自分も大切にされる」集団づくりを進めていく。
- イ 生徒や保護者に対するきめ細やかな教育相談ができるよう、情報の共有や体制づくりを一層進める。
- ※ 学校教育自己診断（生徒向け）「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」の肯定的評価が令和8年度実績で 85%以上を維持（R3 89.1%, R4 93.4%, R5 94.5%）
- 「担任以外にも保健室や相談室等で気軽に相談することができる」の肯定的評価が令和8年度実績で 80%以上（R3 62%, R4 79.3%, R5 82%）
- ※ 学校教育自己診断（生徒向け）「人権の大切さについて学ぶ機会が多い」の肯定的評価が令和8年度実績で 90%以上（R3 91.1%, R4 97.4%, R5 92.3%）
 - ※ 学校教育自己診断（教職員向け）「すべての教育活動において、人権を尊重する姿勢で指導が行われている」の肯定的評価が令和8年度実績で 80%以上（R3 81.2%, R4 80.7%, R5 84.6%）

3 次代のグローバル・リーダーの育成

国際的な視野を育むとともに、グローバルな社会課題を多角的に学び、積極的にその解決策を提言できる生徒を育成するため、海外や大学との連携を図る。また英語の4技能を一層バランスよく育成して、英語によるコミュニケーション能力のさらなる伸長を図る。

(1) コミュニケーション力、議論する力、プレゼンテーション力の育成

- ア 授業を中心とするさまざまな学習活動の中で、自分の考えをまとめ表現できる力、相手の主張を理解し自分の意見を交えてしっかりと議論ができる力を育成する。
- ※ 学校教育自己診断（生徒向け）「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がよくある」の肯定的評価が令和8年度実績で 92%以上を維持（R3 95.5%, R4 93.1%, R5 96.9%）

(2) 海外の機関との連携、高大連携の充実

- ア 高大連携を通じて、国際的な視点で大学の研究の最先端に触れ、国際的な社会課題への関心や、その課題解決に向けた意欲を高める。
- イ 海外の大学や高校と連携し、アジアからの留学生との交流や留学生の支援を得る機会を充実させる中で、異なる文化や社会への理解を深め、国際的な視野を広げる。
- ※ 学校教育自己診断（生徒向け）「国際理解や世界情勢について学ぶ機会がよくある」の肯定的評価が令和8年度実績で 85%以上を維持（R3 86.3%, R4 84.6%, R5 87.6%）
 - ※ 学校教育自己診断（生徒向け）「本校で海外からの高校生との交流会、学内留学、海外研修、留学生とのディスカッション等、英語を使って海外の人と交流したり学んだりする機会に参加したことがある」の令和8年度実績が 90%以上（R3 62.3%, R4 89.4%, R5 92.5%）
 - ※ 学校教育自己診断（生徒向け）「国際的な社会課題や政治の動きに関心がある」の肯定的評価が令和8年度実績で 80%以上（R3 77.2%, R4 83.7%, R5 81.5%）

4 学習環境及び職場環境の充実

(1) 学習環境のさらなる充実

- ア 生徒の主体的な実践を通して清々しく過ごせる学習環境の創出・充実に取り組む。
- 生徒が自らよき生活習慣、生活規範を確立し、学習・部活動、その他の活動に健康的にバランスよく取り組めるよう、機会を捉えて啓発活動を行う。また、SNS上でのいじめやトラブル未然防止のため、情報リテラシーの育成にも取り組む。また、生徒自治会・生徒保健委員会等の生徒主体の活動を尊重し、感染症防止対策など、望ましい学習環境を自らの行動によって支える意識を高める。
- イ 北野生の「凄さ」が「輝く」授業・事業の継続のため、予算の効果的・効率的な執行に努める。また、老朽化してくる教材機器・設備の更新の計画的な実施を検討する。

(2) 職場環境のさらなる充実

教員が専門的知識及び教育スキルを高めるため、また生徒と向き合う時間を確保するため、業務の見直しを行い、時間外労働の縮減に取り組む。教員が自分の仕事に誇りを持ち、働きがいを感じる職場の雰囲気づくりを心がける。

以上のすべての活動を通じて、生徒の学校満足度を高める。

- ※ 学校教育自己診断（生徒向け）「北野高校に来てよかったと思う」の肯定的評価が令和8年度実績で 92%以上（R3 94.5%, R4 91.9%, R5 94%）

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和6年12月実施分〕	学校運営協議会からの意見
＊％は、令和5年度→令和6年度の肯定的回答（よくあてはまる＋ややあてはまる）の比率	第1回 令和6年7月16日（火）14:30～15:40
1. 高い学力の育成 ＊「授業では、ペアワーク・実験・実習・観察などの時間がある」（生徒99.2→92.3%） ＊「授業は興味深く満足できるものである」（生徒94.9→88.7%） ＊「教え方にさまざまな工夫をしている先生が多い」（生徒94.9→89.9%） ※肯定的回答の割合が低下したことを真摯に受け止め、授業改善に努めたい。	・授業参観について、理解の過程を見せるなどプロセスを工夫している。 ・コンテストについて、ネタを与えるのが高校。生徒たちのやりたいことをすればいい。コンテストに無理に出す必要はない。
2. 豊かな人間性と心身のたくましさの育成 ＊「文化的行事に楽しく参加している」（生徒96.7→90.4%） ＊「体育行事に楽しく参加している」（生徒91.7→85.2%） ＊「ホームルーム活動が活発で楽しい」（生徒93.9→86.3%） ＊「入学してから、ボランティアや地域貢献活動に参加したことがある」（生徒36.6→37.4%） ＊「HRや講演会などで将来の進路や生き方について考える機会がある」（生徒98.1→90.5%） ＊「人権の大切さについて学ぶ機会がある」（生徒92.5→88.1%） ＊「校則や社会のルール、モラルをきちんと守っている」（生徒97.1→91.2%） ※学習以外の取り組みについても、肯定的回答の割合が低下。生徒の充実感の得られる取り組みを模索したい。	・クラブの外部指導員の教育目標の理解について確認願いたい。
3. 次代のグローバル・リーダーの育成 ＊「命の大切さや社会のルールやモラルについて学ぶ機会がある」（生徒88.3→82.7%） ＊「授業で自分の考えをまとめたり発表する機会がある」（生徒96.8→90.4%） ＊「本校で海外からの高校生との交流会、学内留学、海外研修、留学生とのディスカッション等、英語を使って海外の人と交流したり学んだりする機会がある」（生徒92.5→88.7%） ※討論やプレゼンテーションを実施する機会は、珍しいことではなくなりつつある。さらに達成感の得られるものとなる工夫を検討。	第2回 令和6年12月20日（金）15:50～16:50 ・子どもたちの疲労感や落ち着きがないように感じている。勉強や部活で頑張っている生徒以外のところで気になるところはある。 ・その他、私学完全無償化などの制度の変更やデジタル採点に関する質問があった。
4. 保護者、府民への学校情報の提供、公開 ＊「学校の教育方針がよくわかる」（保護者85.1→87.1%）＊「学校は、教育に関する情報について配布物やメール、WEBページ等により、提供の努力をしている」（保護者75.2→81.9%） ＊「学校は、子供の進路に関する情報を保護者に提供している」（保護者59.7→66.2%） ＊「学校と保護者が話をする機会が、学級・個人懇談や各種説明会など設定されている」（保護者83.1→82.4%） ＊「授業参観や学校行事に参加したことがある」（保護者90.1→91.7%） ※WEBの活用については、不十分であり、なかなか進んでいないことの改善を急ぎたい。	第3回 令和7年2月14日（金）15:50～16:20 ・施設や安全面に関して、埼玉の下水道事故から見るに、身の回りの危険な部分を少しずつ改善・補修していく努力は必要ではないか。
5. 学校の施設・設備 ＊「学校の施設・設備は授業や生活がしやすいように整備されている」（生徒75→74.1%） ＊「学校の施設・設備や学習環境は満足できる」（保護者69.0→76.4%） ※施設の改修等は、大阪府の計画に従い、順次実施。	・自己診断をフォーム作成ツールで実施すると回答率が下がるとともに、記述式回答の内容が厳しくなったが、匿名性が高くなったことが原因かも知れない。
6. 学校生活への満足度 ＊「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」（生徒94.5→89.4%） ＊「相談事があるとき、担任以外でも保健室や相談室などで相談できる」（生徒82.2→81.2%） ＊「学校へ行くのが楽しい」（生徒91.8→85.8%） ＊「北野高校では他の学校にない特色ある教育活動が行われている」（生徒96.5→88.6%、保護者89.9→92.2%） ＊「北野高校に来てよかったと思う」（生徒94.9→88.7%） ＊「子どもを北野高校に通わせてよかったと思う」（保護者93.2→93.4%） ※生徒の満足度が低下していることについては、今後分析し、改善を図る。	・公開されている情報は多いが、欲しい情報になかなかたどり着けない。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標〔R5年度値〕	自己評価
1 高い学力の育成	（1）アカデミックな授業 ～北野生の「凄さ」が「輝く」授業づくり～	（1）ア ・校内での授業公開週間を実施 ・公開研究授業の実施 ・他校の初任者等教員との授業力向上研修の実施 ・校内の教員相互の授業見学を継続。 ・ICT・オンライン学習等に係る教員研修の開催	（1）ア、イ ・学校教育自己診断（教職員向け）（以下「教職員自己診断」）「他の教員の授業を参観する機会がある」80%以上〔78.8%〕 ・教職員自己診断「教科指導について、教職員で日常的によく話し合っている」の肯定的評価が85%以上〔82.7%〕 ・学校教育自己診断（生徒向け）（以下「生徒自己診断」）「教え方にさまざまな工夫をしている先生が多い」の肯定的評価が92%以上を維持〔94.7%〕	（1）ア、イ ・学校教育自己診断（教職員向け）（以下「教職員自己診断」）「他の教員の授業を参観する機会がある」81.7%（○） ・教職員自己診断「教科指導について、教職員で日常的によく話し合っている」の肯定的評価83.7%（△） ・学校教育自己診断（生徒向け）（以下「生徒自己診断」）「教え方にさまざまな工夫をしている先生が多い」の肯定的評価89.9%（△）
	ア 教職員の授業スキルの向上	イ ・他校や校外における授業研修等への参加者を増やす。 ・研修等への参加者と他の教員との間で研修内容等の共有化を図る仕組みをつくる。 ・教員の専門的知識を研鑽する機会のあり方について検討する。	・生徒自己診断「授業などでコンピュータやプロジェクト、電子黒板を活用している」の肯定的評価92%以上を維持〔97.3%〕 ・生徒自己診断「授業は興味深く満足できるものである。」の肯定的評価が92%以上を維持〔94.7%〕	・生徒自己診断「授業などでコンピュータやプロジェクト、電子黒板を活用している」の肯定的評価90.8%（△） ・生徒自己診断「授業は興味深く満足できるものである。」の肯定的評価88.7（△）
	（2）主体的に学ぶ意欲・態度の育成	（2）ア ・授業を通じ教科・科目の学習への興味・関心を一層高める。 ・自学自習の推進方策についての検討を深める。（主体的な学習習慣の定着、学習の質量両面での充実） ・図書館の設備や資料の活用を働きかけ、生徒の自主的、自発的な読書活動や学習活動の充実を支援していく。	（2）ア ・学習調査の「平日の一日平均自主学習時間」が「2時間以上」を35%以上〔31.3%〕 「3時間以上」を35%以上〔29.0%〕 ・図書館の働きかけを通して、貸出冊数の増加や学習活動の充実を図る。（R5 4713冊）	（2）ア ・学習調査の「平日の一日平均自主学習時間」が「2時間以上」49.4%（○） 「3時間以上」23.7%（△） ・図書貸出冊数 4298冊（△）
	ア 自学自習の推進	イ ・「知的世界の冒険」「職業ガイダンス」「学部・学科ガイダンス」の実施	イ ・「知的世界の冒険」、「職業ガイダンス」、「学部・学科ガイダンス」各々の肯定的評価95%以上を維持〔100%, 100%, 98.5%〕	イ ・「知的世界の冒険」、「キャリアHR」、「学部・学科ガイダンス」各々の肯定的評価96%（○）、88%（△）、99%（○）

		・進路目標の早期設定に向けた取組の充実	・生徒自己診断「学校は進路についての情報を知らせてくれる」の肯定的評価が 90%以上を維持 [92.1%] ・進路希望現役実現率を 50%以上（R 5 52 %）とする。	・生徒自己診断「学校は進路についての情報を知らせてくれる」の肯定的評価 87.7%（△） ・進路希望現役実現率 69.3%（◎）
2 豊かな人間性と心身のたくましさの育成	（1）学校行事・部活動・課外活動 ア 学校行事や部活動 イ 各種コンクール等への参加 （2）人権教育・教育相談の充実 ア 人権基礎教育推進 イ 教育相談の充実	（1）ア ・学校行事が生徒にとってより魅力的なものになるように不断の改善を図る。 イ ・生徒が課外への活動に積極的にチャレンジしていくよう、情報提供等を含め、働きかけを活発にする。 （2）ア ・本校の人権教育の体系化を図る。 ・教職員の人権意識をさらに高めるための研修機会等について検討する。 イ ・生徒の状況についての共有化を一層図る。 ・S C との連携やケース会議の充実、関係機関との連携を一層図っていく。 ・教育相談にかかる校内体制づくりを推進する。	（1）ア、イ ・生徒自己診断「文化的行事（体育行事）には楽しく参加している」の肯定的評価の平均値が 92%以上を維持 [94.1%]。 ・「部・同好会加入率」90%以上 [91.5%]。 ・全国レベル、近畿レベルのコンクールやコンテスト、競技大会等への参加者数が R 5 実績を維持 [44 人] （2）ア、イ ・生徒自己診断「人権の大切さについて学ぶ機会がある」の肯定的評価が 90%以上維持 [92.3%]。 ・教職員自己診断「日常的教育活動において、生徒の人権を尊重する姿勢で指導を行っている」の肯定的評価が 80%以上 [84.6%]。 ・生徒自己診断「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」の肯定的評価が 90%以上を維持 [94.5%]、「担任以外にも保健室や相談室等で相談できる」の肯定的評価が 80%以上 [82%]。	（1）ア、イ ・生徒自己診断「文化的行事（体育行事）には楽しく参加している」の肯定的評価の平均値 87.8%（△） ・「部・同好会加入率」88.3%（△） ・全国レベル、近畿レベルのコンクールやコンテスト、競技大会等への参加者数 40 人（△） （2）ア、イ ・生徒自己診断「人権の大切さについて学ぶ機会がある」の肯定的評価 88.1%（△） ・教職員自己診断「日常的教育活動において、生徒の人権を尊重する姿勢で指導を行っている」の肯定的評価 89.8%（◎） ・生徒自己診断「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」の肯定的評価 89.4%（△）、「担任以外にも保健室や相談室等で相談できる」の肯定的評価 81,2%（○）
3 次代のグローバル・リーダーの育成	（1）コミュニケーション力、プレゼンテーション力の育成 ア 議論できる力等の育成 （2）海外の機関や大学との連携 ア 高大連携 イ 海外との連携	（1）ア ・「課題研究」「学内留学」「国際情報」「海外研修」等を中心に、英語を含めて、ディベート（即興型）やプレゼンテーション等の学習と実践を行う。 （2）ア ・国際的な社会課題への関心と課題解決に向けた意欲を高めるため、地域の資源を活用するとともに高大連携をさらに進め、課題研究における生徒支援をさらに進める。 イ ・海外の大学や高校との連携をオンラインを活用するなどしてさらに進め、また長期留学生を受け入れることで、生徒の国際経験を深めるとともに、課題について研究し、成果を発表する。	（1）ア ・生徒自己診断「授業で自分の考えをまとめ、発表する機会がよくある」の肯定的評価が 92%以上を維持 [96.9%]。 （2）ア、イ ・教職員自己診断「本校は、外部（保護者、地域、大学、教育産業等）との連携・協力を積極的に取り組んでいる。」の肯定的評価が 80%以上 [84.6%]。 ・生徒自己診断「国際理解や世界情勢について学ぶ機会がある」の肯定的評価が 85%以上を維持 [87.6%]。 ・生徒自己診断「本校で海外からの高校生との交流会、学内留学、海外研修、留学生とのディスカッション等、英語を使って海外の人と交流したり学んだりする機会がある」の肯定的評価が 90%以上を維持 [92.5%]。	（1）ア ・生徒自己診断「授業で自分の考えをまとめ、発表する機会がよくある」の肯定的評価 90.4%（△） （2）ア、イ ・教職員自己診断「本校は、外部（保護者、地域、大学、教育産業等）との連携・協力を積極的に取り組んでいる。」の肯定的評価 79.6%（△） ・生徒自己診断「国際理解や世界情勢について学ぶ機会がある」の肯定的評価 82%（△） ・生徒自己診断「本校で海外からの高校生との交流会、学内留学、海外研修、留学生とのディスカッション等、英語を使って海外の人と交流したり学んだりする機会がある」の肯定的評価 88.7%（△）
4 学習環境及び職場環境の充実	（1）学習環境の充実 ア 学習時間の確保 イ 予算の効果的執行等 （2）職場環境の充実	（1）ア ・平成 30 年度に策定した「北野高等学校部活動に係る活動方針」の運用について検証を続ける。 イ ・「授業第一主義」を支える予算の効果的執行 ・教材機器・各種設備の更新、トイレ等生活環境の改善に向けた中期的検討 ・校内組織の見直し継続 ・会議の回数、時間の見直し継続 ・同僚性の高い職場の雰囲気づくり ・部活動指導方針遵守	（1）ア ・学習調査の「休日の一日平均自主学習時間」が「4 時間以上」を 50%以上 [45.3%]、「5 時間以上」を同 35%以上 [34.2%]。 イ ・学校会計事務の適正な遂行のもと、教員と事務職員がそれぞれの専門性を生かしつつ、必要な情報を収集共有し互いに知恵を寄せて、生徒のためよりよい教育活動に向けた創造的提案を行う。 ・保護者自己診断「学校の施設・設備や学習環境は満足できる」75%以上目標。[71.9%] ・教職員の年平均在校時間を前年度より削減する。[404.6]時間	（1）ア ・学習調査の「休日の一日平均自主学習時間」が「4 時間以上」49.5%（△）、「5 時間以上」35.7%（○） イ ・同窓会などからの寄付金の使途について活用方法を企画提案。（○） ・保護者自己診断「学校の施設・設備や学習環境は満足できる」76.4%（○） ・教職員の年平均在校時間 336.8 時間（◎）